

## ファブリペロー分光器による中緯度熱圏中性風速・温度の長期観測

Long-term observation of neutral wind and temperature in the midlatitude thermosphere using an imaging Fabry-Perot interferometer.

# 門田 拓郎[1], 塩川 和夫[1], 江尻 省[2], 大塚 雄一[3], 小川 忠彦[2]

# Takuro Kadota[1], Kazuo Shiokawa[2], Mitsumu Ejiri[3], Yuichi Otsuka[1], Tadahiko Ogawa[4]

[1] 名大 STE 研, [2] 名大・STE 研, [3] 名大 STE 研

[1] STEL, Nagoya Univ., [2] STE Lab., Nagoya Univ., [3] STEL, Nagoya Univ., [4] STE Lab., Nagoya Univ

名古屋大学太陽地球環境研究所で開発された全天型のファブリ・ペロー分光器は現在酸素原子による二つの波長(630.0 nm - 高度 250 km 付近, 557.7 nm - 高度 96 km 付近)の大気光について観測を行っており、各発光高度における中性大気の風速ならびに温度を 20 分の時間分解能で求めることが可能である。

この観測装置は 1999 年 6 月から開始した定常自動観測により 2000 年 5 月までで一年分の観測データが得られることになる。本講演ではこの間のデータを用いて 630.0nm 大気光による中性大気の風速・温度の解析を行い、季節変化などに着目した議論を行う予定である。

名古屋大学太陽地球環境研究所では、中間圏・熱圏における物理過程の理解を目的として京都大学信楽 MU 観測所(34.9°N, 136.1°E)に複数の光学観測機器からなる超高層大気イメージングシステム(Optical Mesosphere Thermosphere Imagers : OMTI)を設置している。このうち全天型のファブリ・ペロー分光器は現在酸素原子による二つの波長(630.0 nm - 高度 250 km 付近, 557.7 nm - 高度 96 km 付近)の大気光について無人定常観測を行っており、各発光高度における中性大気の風速ならびに温度を 20 分の時間分解能で求めることが可能である。

OMTI のファブリ・ペロー干渉計は 1999 年 6 月から開始した定常自動観測により 2000 年 5 月までで一年分の観測データが得られることになる。本講演ではこの間のデータを用いて 630.0nm 大気光による中性大気の風速・温度の解析を行い、季節変化などに着目した議論を行う予定である。